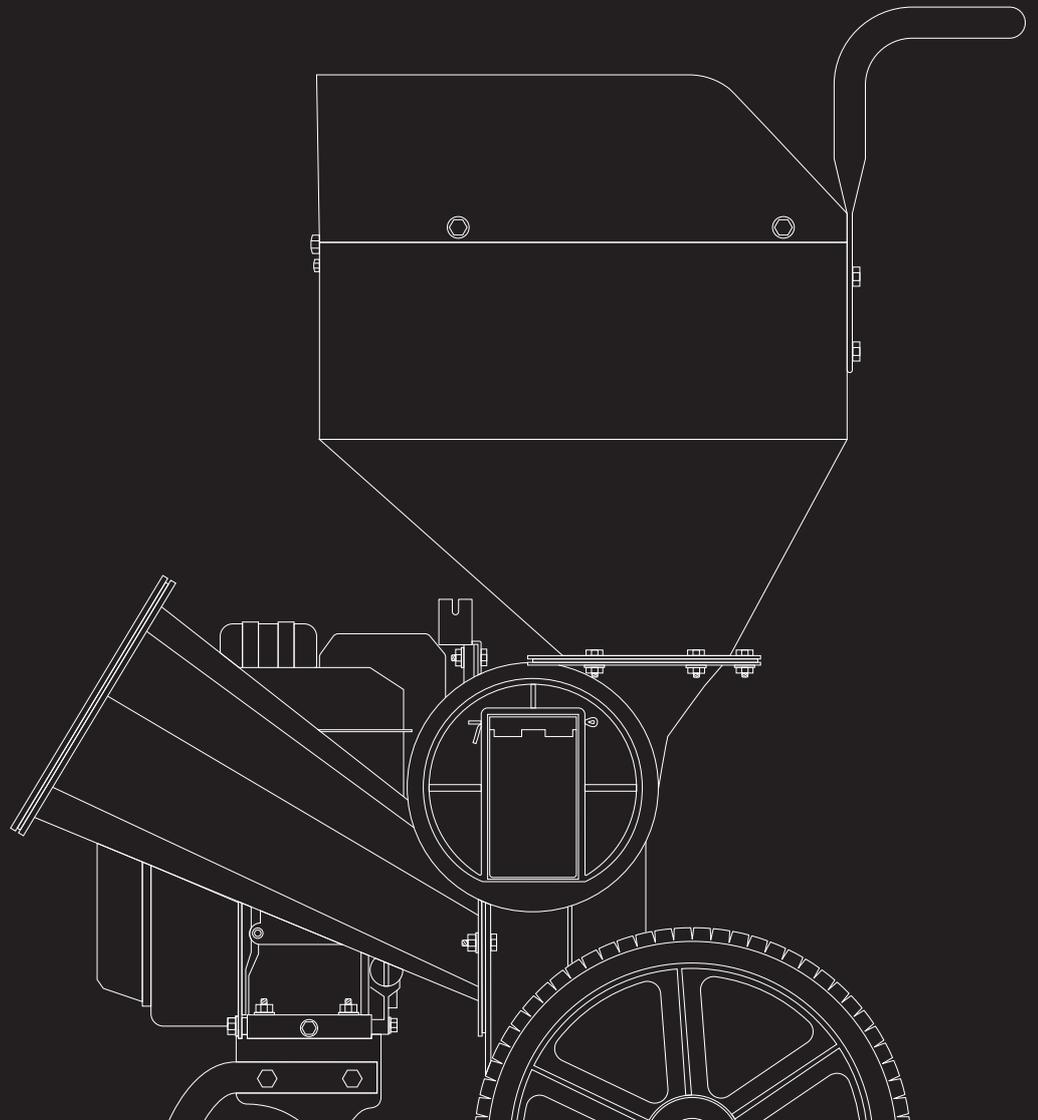


エンジン式 チップパーシュレッダー

# GCP75

# OPERATING MANUAL



# はじめに

この度は、当社のエンジン式チップーシュレッダー GCP75 をご購入いただき厚くお礼申し上げます。

本製品がいつまでもお役に立ちますよう、取扱い説明書を十分お読みの上、ご使用ください。

メーカーは、機械の用法、運転、点検、整備を直接監督指導することはできません。

正しく安全に作業を実施するのは、あなた自身です。

尚、この取扱い説明書で述べていることの他にも作業によっては、

法令、条例、規則や保険条件などが適用されることがありますので十分ご注意ください。

また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。

尚、仕様変更などにより本製品と取扱い説明書の内容が異なる場合もありますのであらかじめご了承ください。

## ⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた ⚠ の表示がある警告ラベルは人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。なお、ラベルが汚れている場合は石鹼水で洗い、柔らかい布で拭いてください。汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店に注文し必ず所定の位置に貼ってください。ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

## 注意表示に関して

この取扱い説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項に関して次のように表示しています。

-  **危険** …… 注意事項を守らないと、死亡または重症を負うことになるものを示します。
-  **警告** …… 注意事項を守らないと、死亡または重症を負う危険性があるものを示します。
-  **注意** …… 注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示しています。
- 重要** …… 注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれがあるものを示しています。
- 補足** …… その他、使用上役立つ補足説明を示します。

# もくじ

▲ 安全作業のために	3
1 サービスと保証について	8
2 組立方法	
1 梱包物の確認	9
2 本体の組立	10
3 各部の名称	14
4 ご使用前に	
1 作業前の点検	15
2 エンジンオイルの点検	15
3 燃料の点検	16
4 エアクリナーの点検	16
5 排出バッグの点検	17
6 ホッパー内の点検	17
5 使用方法	
1 エンジン始動前の注意事項	18
2 エンジン始動の仕方	19
3 エンジン停止の仕方	19
4 粉碎・破碎の仕方	20
6 ご使用後の注意事項	22
7 メンテナンス	
1 点検整備の目安	23
2 点検整備の注意事項	23
3 エンジンオイルの交換方法	24
4 スパークプラグの点検・交換	24
5 エアクリナーの清掃	25
6 燃料について	25
7 カバーキャップの開閉	26
8 ローターハウジングの取り外し	26
9 メインハウジングの取り外し	27
10 木材スライス平刃の交換方法	28
11 スクエア刃・L字型刃の交換方法	29
8 長期保管と寒冷期使用の注意事項	
1 長期保管の注意事項	30
2 寒冷期使用の注意事項	30
9 トラブルシューティング	31
10 仕様	33
パーツリスト・保証書	37

## ! 安全作業のために

### 1 安全 3 憲章

安全に作業するための基本です。作業前には復唱し守ってください。

- ① 作業開始前に仕業点検をおこないます。
- ② 点検整備するときは、必ずエンジンを止めておこないます。
- ③ 作業は原則 1 名で行い、複数人で作業を行いません。

これ以外にもぜひ守って頂きたい注意事項を本項の”安全作業のために”でまとめて取り上げておりますので、よくお読みいただいて必ず守ってください。

### 2 安全作業のために、次のことがらを必ず守ってください。

本製品（今後は本機と呼びます）を使用する前に、必ずこの取扱い説明書並びにエンジンの取扱い説明書をよく読み、十分理解した上で安全な作業をしてください。

ちょっとした油断、不注意から事故を起こさないため、次の注意事項は特に注意して常に安全に作業してください。



## 作業をはじめる前に

### 1 安全な服装で！

服装はキチンとした、だぶつきの無い活動的なものを着用し、保護マスク、保護メガネ、作業帽、不浸過性の手袋、作業靴を着用してください。

また、作業中の安全を考慮し、ラジオあるいはミュージックヘッドホンなどを使用しないでください。



### 2 必ず仕業点検を！

本機を使用される前に必ず仕業点検を実施してください。

- ① 各部の油量及び漏れの点検
- ② 各部のボルト、ナットのゆるみ点検及び増し締め
- ③ 各レバー類の動きが正常かどうかの点検
- ④ 電気配線の点検など

※ 仕業点検により不具合が発見された場合には、直ちに補修などの措置を講じてください。

絶対に、不具合・異常のある状態で使用してはいけません。

### 3 夜間作業禁止!

周囲の安全確保が不完全だったりや手元が見えにくい場合があります。夜間や暗い中での作業をしてはいけません。

#### 4 作業者の制限!

1) 次に該当する人は、本機の作業に従事しないでください。

- ① 酒気を帯びた人 ② 若年者 ③ 未熟練者
- ④ 過労、病気、薬物の影響その他の理由により、正常な作業ができない人
- ⑤ 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供

2) 作業が続く場合には、健康に留意し、適当な休息と睡眠をとってください。

妊娠中の方は、作業に従事しないでください。

#### 5 目的以外使用の禁止!

本機は定められた目的以外に使用すると、機械の安全性が損なわれる場合があります。危険ですから木材や枝木の粉碎以外に使用してはいけません。

#### 6 改造などの禁止!

本機の改造は危険ですので絶対におこなってはいけません。故障の原因になるばかりか人身事故にもつながります。

#### 7 機械を貸与する際の注意!

本機を他人に貸与する場合は、操作方法や注意事項などをよく説明し、取扱説明書を手渡してください。また借りた人が作業前に取扱説明書をよく読み、操作方法を十分理解してから作業を開始するように指導してください。

#### 8 密閉室内での作業の禁止・換気に注意!

エンジンは有毒ガスを発散しますので、密閉した室内又は換気の悪い場所で使用してはいけません。排気ガスが空気を汚してガス中毒をおこす危険があります。換気には十分注意してください。



#### 9 ヤケドに注意!

エンジン運転中および停止直後のエンジン・マフラーなどは、高温のため触れるとヤケドの危険があります。点検・整備などをおこなう場合は、エンジンの各部が十分に冷えてから（停止後30分以上）作業してください。

#### 10 火気厳禁!

燃料の補給時や潤滑油、オイルなどの給油・交換時は、エンジンを止めてください。また、火災や引火爆発のおそれがありますので、くわえタバコなどの火気は絶対に近づけてはいけません。こぼれた燃料や潤滑油が高温部で着火する可能性がある場合は、エンジンが冷えきってから補給してください。



#### 11 強風や悪天候時の使用禁止!

強風や悪天候の際は本機を使用しないでください。強風による転倒、粉碎した粉塵が強風により舞い上がることによる周囲への被害、視界不良などによる事故や怪我の恐れがあります。

## 作業中

### 1 エンジン始動時の注意!

エンジン始動前に必ず次の点を確認してください。

○本機の周囲に人がいないことを確認してください。

○エンジンの周囲に可燃物がないことを確認してください。

○始動する場合、リコイルのロープを最大に引張って更にスペースがあることを確認してください。

### 2 作業者のエンジン始動中の退出禁止!

作業者はエンジン始動中は決して本機を離れないでください。離れる際は必ずエンジンを停止してから退出してください。

### 3 異常を感じた時の措置!

音や振動などで本機に異常を感じたときは、直ちにエンジンを停止させ、点検・修理などの適切な処置をとってください。

### 4 傾斜地での使用禁止!

傾斜地でのご使用は大変危険です。本機は必ず水平で周囲の安全の確認できる場所でご使用ください。

### 5 気温の低い場合の使用禁止!

本機を気温 5℃以下の環境で使用しないでください。5℃以下の気温で使用すると機械が正常に動作しない場合があります。

### 6 木材、枝、木片以外の使用禁止!

本機は木材、枝、木片等を粉砕する目的で使用するものです。それ以外用途に使用しないでください。またそれらの材質でも釘や金具、石、ガラス、ビニール素材などが付属しているものは必ずそれらを事前に取り除いてください。付属したまま使用すると本機の損傷の原因となるだけでなく、破片の飛散等により事故や怪我を招く恐れがあります。

### 7 作業者の足場確保!

ハンドルや操作レバー、タイヤ、作業現場などに泥や油、雪などが付着していると滑りやすく大変危険です。また作業する場所に障害物を残したまま作業すると、つまずいて転倒する恐れがあります。作業する場所は常に整理整頓して作業を行ってください。

### 8 本機の積み込み、積み下ろしの注意!

車両の積み込み、積み下ろし作業は加ならず 2 人以上で行ってください。作業の際は勾配角 15 度以下を確保できるゆあみ板やアルミブリッジを使用し、作業者は本機の下には絶対に立たないようにして作業してください。本機の輸送時は必ずワイヤロープや角材などでしっかりと荷台に固定してください。

### 9 カバー類の取り外し禁止!

点検・清掃などで取り外したカバー類は必ず元の位置に取付けてからご使用ください。また変形したカバーは新しいものと交換してください。

## 作業が終わったら

### 1 終了時点検の実施を!

作業終了後に本機を清掃し次の作業の安全を確保するため、各部の点検をおこない異常が認められた場合は、補修などの措置を講じてください。

### 2 本機の格納は冷えてから!

本機を格納するときは、エンジンやマフラなどの高温部分が冷えてから、燃えやすい物が近くにない場所に格納してください。乾いた木片や薪などの燃えやすい物の近くに保管すると火災の原因となり危険です。



### 3 点検・整備は適正な工具の使用を!

点検・整備は適正な工具を使用してください。間に合わせの工具で点検・整備をおこなうと、作業中のけがや整備不良による事故の危険性があります。

### 4 長期保管前に燃料タンク、キャブレターの確認注意!

長期保管前には、燃料タンク内の燃料とキャブレターの燃料を抜き取り本機を火気の無い場所に保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、購入1か月以内に使い切るようにしてください。

### 5 水洗い禁止!

本機を水洗いやスチーム洗浄などをしないでください。内部に水が浸入すると故障や不具合の原因となります。使用後のゴミや汚れは乾いたウエスなどでふき取るか、ブロアやエアアなどで吹き飛ばして清掃してください。

### 6 ホッパー内の残留物の放置禁止

使用後はホッパー内に残った枝や葉、木片などをきれいに清掃してください。また、湿った草や枯れ葉などを残しておくとは詰まりや故障の原因となります。必ずホッパー内はきれいにし、保管中にゴミやホコリなどがたまらないようにして保管してください。

# 表示ラベルとその取扱い

## 1 表示ラベルの手入れと貼付位置

本機には安全についてのラベルが貼ってあります。良く読み理解した上で運転してください。

- ① ラベルが汚れている場合は石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。
- ② 汚損や紛失したラベルは、お買い上げの販売店に注文し所定の位置に貼ってください。
- ③ ラベルが貼付されている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。
- ④ 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全にふき取り、乾いた後元の位置に貼ってください。

**警告**

木材粉碎投入口には規定サイズ（軟材φ75mm/硬材φ50mm）以上の木材は投入しないでください。規定サイズ以上の木材を投入すると本機を損傷する恐れがあります。

**警告**

直径が5mmより太い枝は挿入しないでください。規定より太い枝を挿入すると、機械に損傷を与える可能性があります。

●φ5mm

**危険**

稼働中は排出口に手を近づけないでください。粉碎した破片が飛散しケガをする恐れがあります。

**葉草**

小枝 5mm  
最大径

**硬材**  
最大径 50mm  
まで

**軟材**  
最大径 75mm  
まで

**危険**

稼働中は刃が回転しているので大変危険です。ホッパーに手を近づけないでください。手を近づけたりすると回転する刃で指や手を切断する恐れがあります。

**警告**

- すべての操作手順を注意深く読み、それに従ってください。
- 機械を操作する前に、すべての安全装置を確認してください。
- 安全ゴーグルで常に目を保護してください。
- 聴覚保護装置で常に耳を保護してください。
- 防護服と安全靴を着用してください。
- 機械を操作するときは、ゆっただりした状態を維持しないでください。
- 必ず、手を、足を、衣服や髪、機械に近づくのを防ぐために離してください。
- 作業中は、緑色シート機械の手の届かないでください。
- 機械を操作する前に、すべてのカバー、フード、おまもりなどの安全装置が所定の位置にあることを確認してください。
- 子供のいる場所や他の人の近くで機械を操作しないでください。
- すべての可燃物は常に燃やさないでください。可燃物の燃やさないでください。
- 機械の使用が終了したら、必ずエンジンを押してください。

**これより下に手を入れないでください。**

**危険**

パネルを取り外す際は必ず事前にスパークプラグを外してください。稼働中は投入口に手を近づけないでください。

**危険**

稼働中は刃が回転しているので大変危険です。投入時は投入口に手が近づいたら直ちに手を放し、投入口に手や指を近づけないでください。

**警告**

排出された破片は深刻な人身事故の原因となる可能性があるため、排出バッグを取り付けずに機械を操作しないでください。



# 1

## サービスと製品保証

### 1

#### 製品保証

本製品には、保証書が添付してあります。詳細は、保証書をご覧ください。

### 2

#### サービス（相談窓口）

ご使用中の故障やご不明な点およびサービスについてのご用命は、ご購入された販売店または弊社営業所にお気軽にご相談ください。

その際、本機の型式と製造番号・搭載エンジンの型式・ご購入日などをご連絡ください。

号機番号貼り付け位置



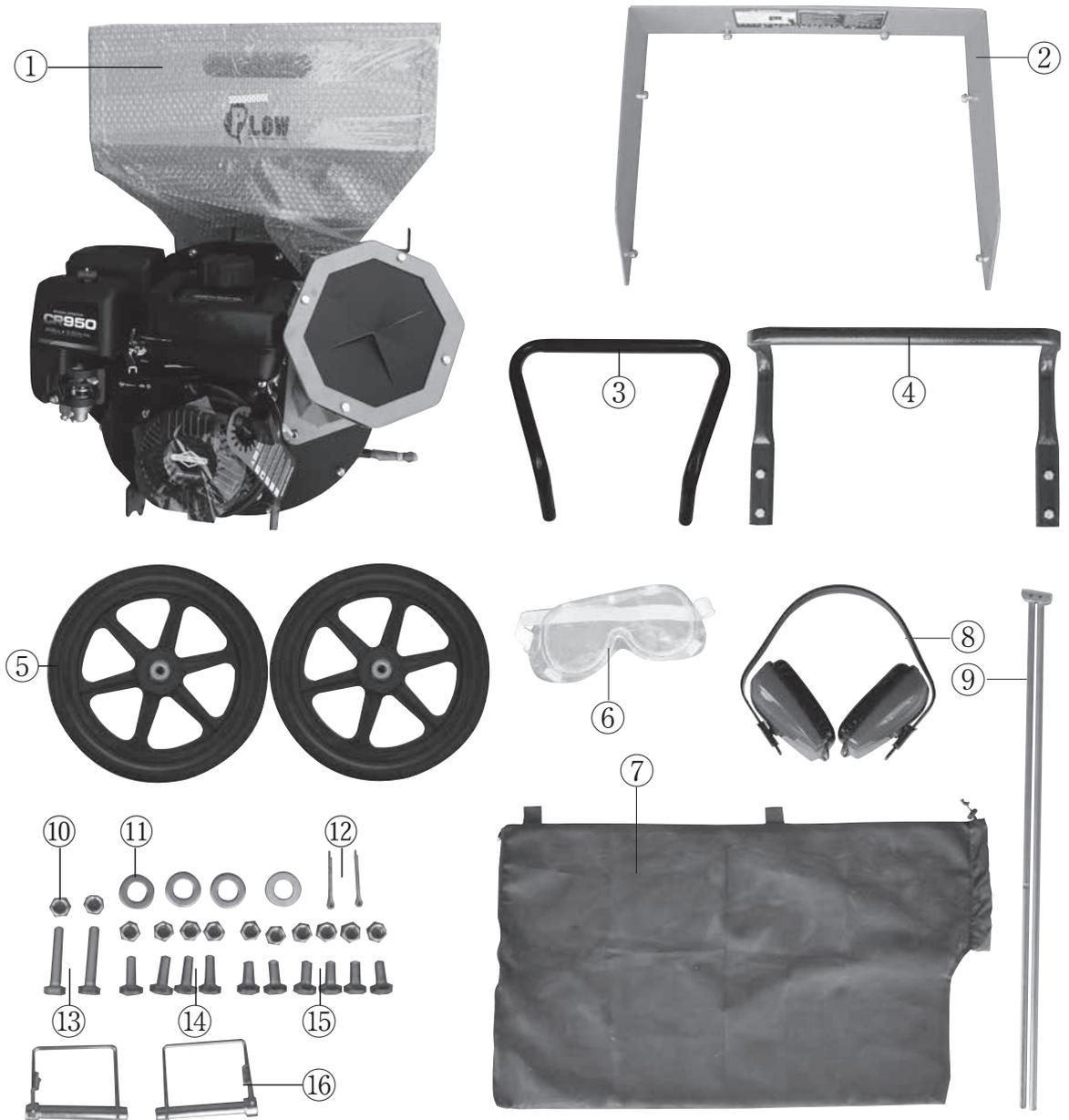
## 2

# 組立方法

## 1

### 梱包物の確認

組み立てる前に内容物を確認し、不足・破損しているものがないかご確認ください。不足・破損しているものがあつた場合はご購入いただいた販売店にお問い合わせください。



① チップーシュレッダー本体	1	⑧ イヤマフ	1
② ホッパーカバー	1	⑨ バッグサポートロッド	1
③ サポートレッグ	1	⑩ ナットφ13	12
④ ハンドル	1	⑪ ワッシャー	4
⑤ ホイール	2	⑫ ワリピン	2
⑥ 防護メガネ	1	⑬ ボルト(大) 38mm × φ 5mm	2
⑦ 排出バッグ	1	⑭ ボルト(中) 18mm × φ 5mm	4
		⑮ ボルト(小) 13mm × φ 5mm	6
		⑯ 安全ピン	2

**補 足** 組立作業は基本的に大人2名で行ってください。また、組立作業に入る前に組立内容を一度最後まで確認してから組立作業を行ってください。組み立てが不完全だと、異音や異常摩擦、微振動などにより破損や故障の原因になります。抜け落ちがないようご注意ください。

### ■ 用意する工具

- 13mm レンチ 2本
- 14mm レンチ 1本
- バール 1本
- ペンチ 1本
- 高さ18cm～20cm程度のブロックもしくは木片など

### ■ 本体の取り出し

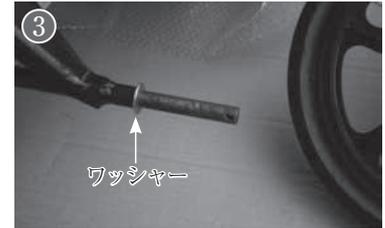
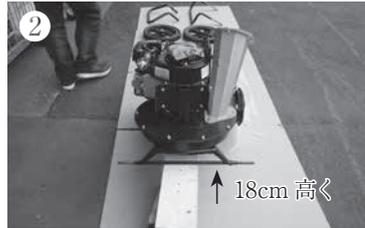
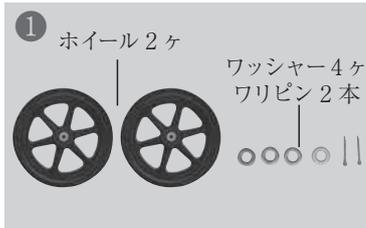


- ① 本機は箱入り梱包でのお届けとなります。
- ② 段ボールを開けると木枠に入った本体の各パーツが見えます。
- ③ 周囲の段ボールを取り除き、木枠を取り出します。

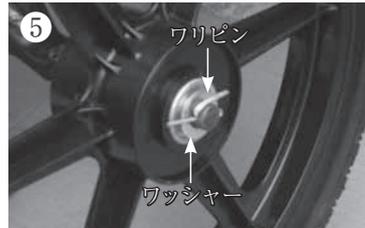
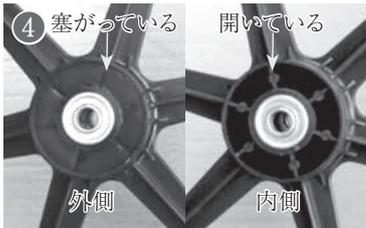


- ④ 木枠は釘打ちで固定されているので、バール等こじ開けます。木枠の破片には釘が打ち込まれています。作業中に誤って踏んでケガしないようご注意ください。
- ⑤ 周りの段ボールを下に敷いて作業をすると床や本体を気づけずに作業ができます。本体は重量がありますので、木枠から取り出す際は大人2人で作業を行ってください。
- ⑥ 9頁の「梱包物の確認」を参照し、不足や破損がないか確認してください。不足や破損が見つかった場合は速やかにご購入先もしくは販売元までご連絡ください。

## ■ ホイールの取付

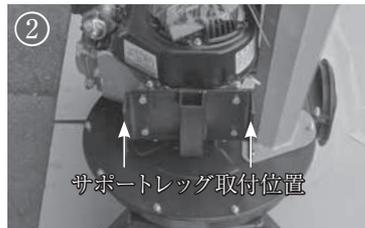
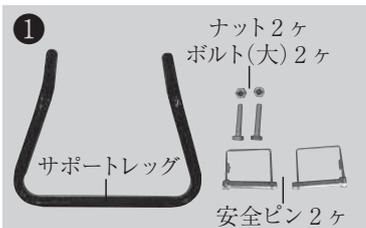


- ①ホイールの取付には、ホイール 2ヶ、ワッシャー 4ヶ、ワリピン 2本を使用します。
- ②本体の車軸部分の下にホイールの半径 18cm より高くなるようにブロックや木片などを置きます。
- ③車軸にワッシャーを一つ通します。



- ④ホイールには内面と外面があります。車軸の穴の周りに空洞が開いている方が内側です。
- ⑤内側・外側を間違えないよう注意してホイールを車軸に取付け、ワッシャーを入れ、ワリピンで留めます。
- ⑥両側を同じように取り付ければ、ホイールの取付は完了です。

## ■ サポートレッグの取付



- ①サポートレッグの取付にはボルト(大) 2本、ナット 2ヶ、安全ピン 2ヶを使用します。
- ②サポートレッグは本体の前面部に取付けていきます。
- ③まず、ボルト(大) とナットを使い、ボルト取付位置にサポートレッグを仮締めします。

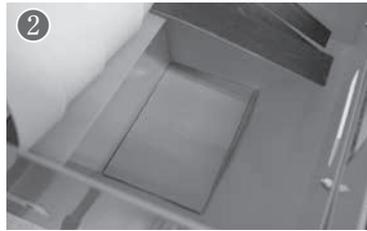
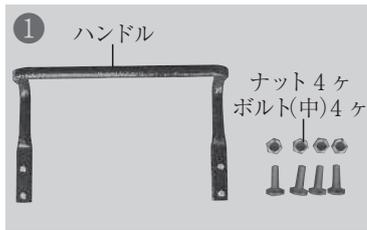


- ④レンチ 13 番を 2 本使い、ボルトとナットを締めますが、ここでは絶対に強く締めないでください。
- ⑤ボルトとナットの締付けはサポートレッグが前後にゆるく動く程度にとどめておきます。
- ⑥サポートレッグの奥の穴と安全ピン取付位置の奥の穴を安全ピンでとめます。



- ⑦ホイール、サポートレッグを取り付けたら本体を起こして完成です。

## ■ ハンドルの取付

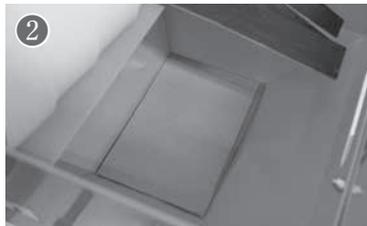
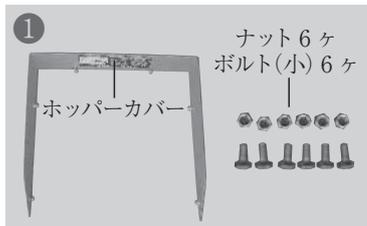


- ① ハンドルの取付けにはボルト(中) 4 枚、ナット 4 枚を使用します。
- ② 作業時、ボルトやナットをホッパー内に落としてしまうと、取り出すのがとても大変になるのでご注意ください。安全策としてホッパー内の穴を段ボールなどで塞いでおくと作業が安心して行えます。(取り出し忘れにご注意ください。)
- ③ ハンドルを補助の方に抑えてもらい、ボルト(中) とナットで留めていきます。内側からボルトを差し込み外側からナットを手で止めます。



- ④ ボルト・ナットを 4 つ着け終わったら、今度はレンチでしっかりと閉めていきます。ボルト側の頭は 14 番、ナット側は 13 番のレンチを使いしっかりと締め付けます。
- ⑤ 落下防止段ボールをホッパー内に入れた場合は、段ボールを取り除くのを必ず忘れずに行ってください。
- ⑥ しっかりと締め付けができればハンドルの取付は完成です。

## ■ ホッパーカバーの取付

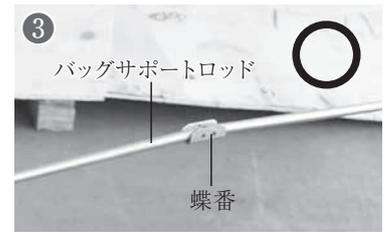


- ① ホッパーカバーの取付にはボルト(小) 6 枚、ナット 6 枚を使用します。
- ② 作業時、ボルトやナットをホッパー内に落としてしまうと、取り出すのがとても大変になるのでご注意ください。安全策としてホッパー内の穴を段ボールなどで塞いでおくと作業が安心して行えます。(取り出し忘れにご注意ください。)
- ③ ホッパーカバーを補助の方に抑えてもらい、ホッパー内の穴に合わせてボルト(小) とナットを手で仮締めしていきます。



- ④ 全てのボルトの仮締めが終わったら、今度はレンチで均一に締めつけていきます。
- ⑤ 落下防止段ボールをホッパー内に入れた場合は、段ボールを取り除くのを必ず忘れずに行ってください。
- ⑥ ホッパーカバーのボルトをすべて締め付ければ完成です。

## ■ 排出バッグの取付



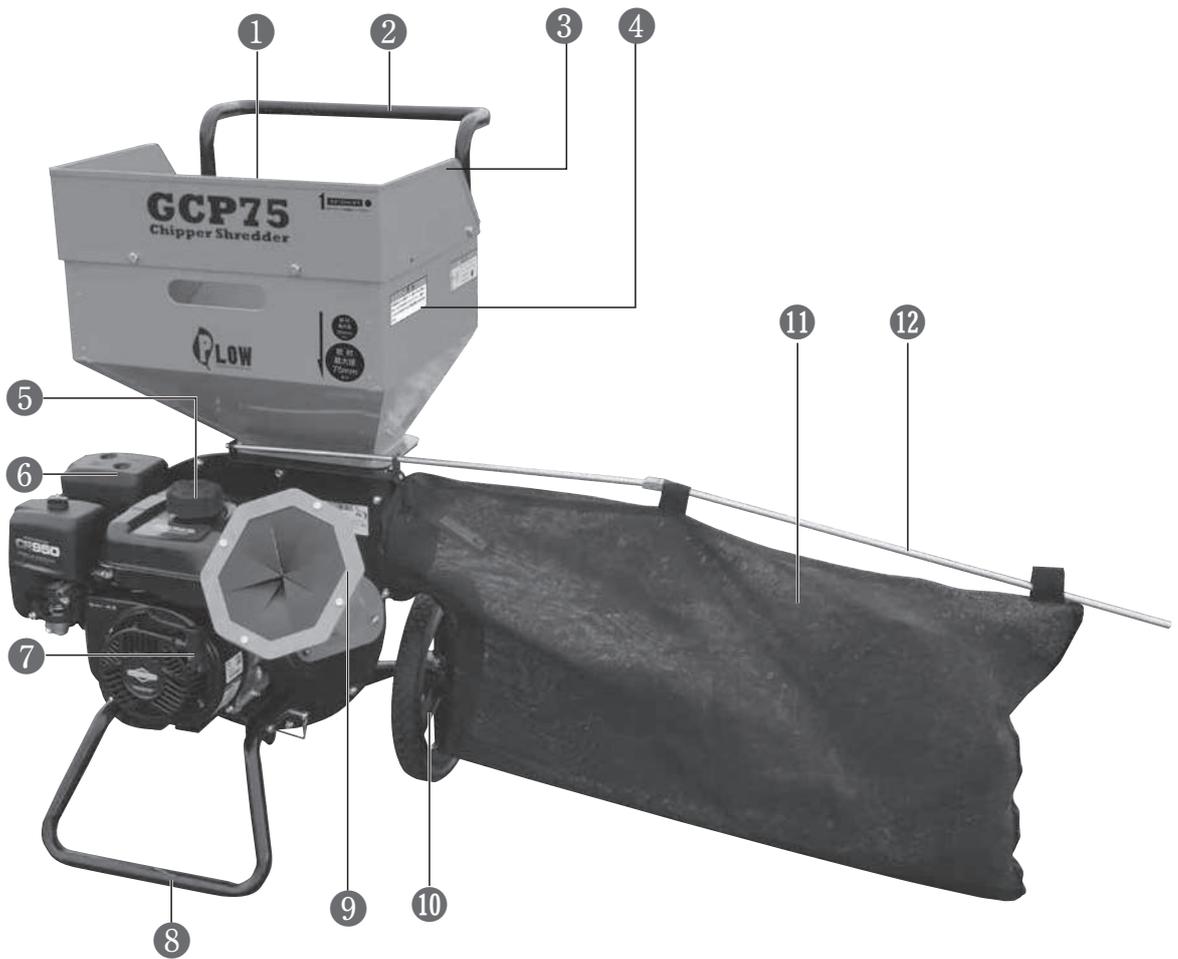
- ① 二つ折りにになっている排出バッグ支え棒を開き、蝶番が下にくるようにしてバッグサポートロッドに溝がついている側を本体に取付けます。
- ② バッグサポートロッドの溝を取付取付位置に溝を合わせ差し込みます。
- ③ バッグサポートロッドがきちんと伸びて取付できていることを確認します。この時、蝶番が上に来ていると棒が垂れさがってしまうので、その時は向きを直してください。



- ④ 排出バッグの口を本体側にして、バッグの上についている排出バッグ取付ループをバッグサポートロッドに通します。
- ⑤ 排出バッグの口についているコードストッパーを緩めて本体の排出口に取り付けます。
- ⑥ 本体の排出口に排出バッグの口を取り付けたら、コードストッパーをしっかりと締めておきます。この時、ストッパーの締めが緩いと粉碎塵が漏れてしまうのでしっかりと締めてください。



- ⑦ これでチップーシュレッダーは完成です。



- |              |             |             |
|--------------|-------------|-------------|
| ①ホッパー        | ⑧サポートレッグ    | ⑮プラグキャップ    |
| ②ハンドル        | ⑨木材粉碎投入口    | ⑯チョークレバー    |
| ③ホッパーカバー     | ⑩ホイール       | ⑰燃料コック      |
| ④粉碎ホッパー      | ⑪排出バッグ      | ⑱キャブレーター    |
| ⑤燃料タンクキャップ   | ⑫バッグサポートロッド | ⑲エンジンオイル給油口 |
| ⑥エアークリーナーカバー | ⑬マフラー       | ⑳オールドレンボルト  |
| ⑦リコイルグリップ    | ⑭スロットルレバー   |             |

使用前に自分と周囲の安全をしっかりと確保しましょう。事前のチェックを行う事で怪我の危険性が大幅に軽減されます。このマニュアルをよく読み停止方法や操作方法を習得して下さい。

### ■ 本体の点検

安全に本機を末永くご使用頂くためには事前のチェックが非常に重要です。使用前に修理箇所や問題が見つかった場合はすぐに販売店に修理を依頼してください。また、本章「ご使用前に」を確認し不備や不足がないか確認してください。

**！ 危険** 本機を不適切に管理・保管したり修理を行わなかった場合、重大な故障や破損を引き起こす可能性があります。最悪の場合、使用者の怪我や事故が起きる可能性があります。それぞれの作業前に事前チェックを行い問題の改善を行って下さい。

**！ 危険** 本書記載の注意事項や本機に記載の注意ラベルに従い、安全面や使用方法について再度ご確認ください。誤った使用や安全を怠ると多大な事故や人命にかかわる場合があります。

**！ 警告** 本書記載の使用前点検・使用後のメンテナンスが適切に行われていない場合の故障・不具合については、保証期間内でも保証対象外となりますのでご注意ください。

### ■ 服装のチェック

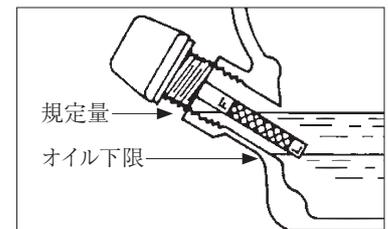
- 手・足・目に対し、適切な作業服・グローブ・ゴーグルがない場合は本機の使用を中止してください。
- だぶつきのない活動しやすい作業服を着てご使用ください。また巻き込まれる危険のある装飾品や名札、ペンなどは身に着けて作業しないでください。
- 作業場の安全を考慮し、ラジオやオーディオ、ヘッドホンなどを使用して作業しないでください。

**！ 警告** エンジン始動前に必ずエンジンオイルを規定量入れてください。  
規定量のエンジンオイルを入れず始動した場合、エンジンが故障します。この場合の故障についてはいかなる理由があっても保証対象外となります。ご注意ください。

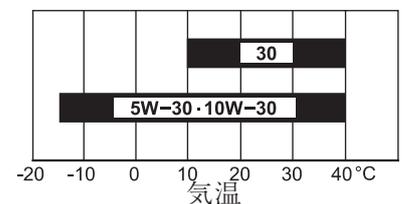
- ①本機が水平になっていることを確認して下さい。
- ②エンジンオイル給油口のキャップについているディップスティックを取り外します。
- ③エンジンオイルが注入口の口元まであるのを確認してください。
- ④量が少なかったり、汚れている場合は交換・充填を行ってください。  
(24頁 エンジンオイルの交換方法 参照)



**！ 危険** エンジンが温まっているとエンジンオイルが高温になっている場合があります。火傷の危険があります。エンジンオイルの点検は必ずエンジンが冷えた状態で行ってください。



**！ 注意** エンジンオイルは使用時に燃焼したり、汚れたりしていきます。定期的に交換・充填を行うようにしてください。



- 燃料は購入してから1ヶ月以内の新鮮なレギュラーガソリンをご使用ください。
- 古いガソリンや混合燃料は決して使用しないでください。
- タンク内は清潔に保ち水が入らないようにしてください。
- 指定のガソリン以外のものを使用した場合のエンジントラブル・損傷や性能の低下はメーカー保証の対象外となります。
- ガソリンは塗装やプラスチック面に損傷を与える可能性があるためこぼれた場合はすぐに拭き取って下さい。こぼれた燃料による損傷はメーカー保証の対象になりません。

**! 重要** 本機を不適切に管理・保管したり修理を行わなかった場合、重大な故障や破損を引き起こす可能性があります。最悪の場合、使用者の怪我や事故が起きる可能性があります。それぞれの作業前にチェックを行い問題の改善を行って下さい。

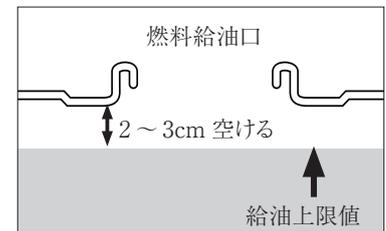
### ■点検

燃料給油キャップを外し、燃料があるか点検します。少ない場合は補給してください。

### ■補給

[使用燃料] 無鉛レギュラーガソリン

燃料給油キャップを外し、給油上限値を超えないよう補給します。給油後、燃料給油キャップを確実に締め付けてください。



エアクリナーがゴミやホコリで目詰まりをしていないか確認します。

**! 注意** エアクリナーが詰まっているとエンジンに正常な空気を取り込まれないため点火できなったりエンジンが不安定になる場合があります。



### ■点検方法

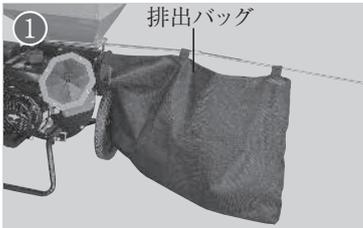
- ①エアクリナーカバーの上の蝶ねじを反時計方向に回し外します。
- ②カバーを外し中のエアクリナーの汚れを確認します。
- ③汚れがひどい場合は清掃もしくは新しいものと交換してください。清掃方法は「23頁 メンテナンス」をご参照ください。



### ! 重要

ご使用時は必ずエアクリナーを取り付けてください。エアクリナーを付けないまま使用するとホコリや砂などを吸気しエンジンの寿命を著しく縮めます。また、取付けの際にネジが緩んでいたたり、ずれて取り付けられていると異常振動の原因となります。取付けの際は隙間がないよう取付を行ってください。

## 5

排出  
バ  
グ  
の  
点  
検

① 排出バッグに破れやほつれがないか確認し、シュレッダーの排出口にきちんと取付けができていないか確認してください。

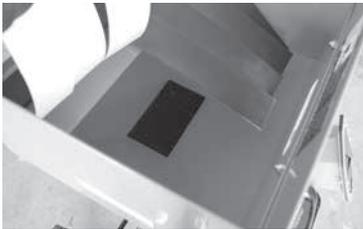
② 取付けがきちんとできていない、排出バッグ口のコードストッパーの締付けが緩いと使用時に外れてしまう危険があります。しっかりと閉まっているか確認してください。取付方法については(13頁「排出バッグの取付」を参照してください。)



## 6

ホ  
ッ  
パ  
ー  
内  
の  
点  
検**危険**

ホッパー内を確認する際は必ずエンジンを停止し、プラグキャップを取り外してから行ってください。



① エンジンを始動する前に必ずホッパー内に、前回使用時の残物や、不要物が入っていないか確認してください。

② エンジン始動後はホッパー内に絶対に手や工具などを入れないようご注意ください。

エンジンを始動する際は以下の重要点・注意点を必ずご確認の上、始動を開始してください。下記注意事項を守られていない場合の故障、不具合、事故等については保証対象外となります。

-  **重要** 本機のエンジンを始動するときは、必ずエンジンオイルが適量充填されているか確認してください。適量充填されていない状態で始動するとエンジンが焼き付きを起し、重度の故障となります。またその場合の故障についてはいかなる理由でも保証対象外となりますのでご注意ください。
-  **危険** 本機から排出される排気ガスには有害な物質を含んでいます。エンジンを始動する際は必ず屋外の換気の良い場所で使用し、本機のマフラーが作業員や人に向かないようご注意ください。
-  **危険** エンジン始動時はホッパー内や木材投入口などに手や工具などを絶対に近づけないでください。また、ご使用時には周りに作業員以外が立ち入らないようご注意ください。
-  **注意** 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止して、エンジンやマフラーが冷えてから行ってください。
-  **注意** 作動中はマフラーが大変熱くなります。むやみに触れないようご注意ください。
-  **注意** 本機の近くに火気類を近づけないでください。また作業員は、たばこやマッチ等火気類の使用はしないでください。またヘッドホンやラジオ、イヤホンなどは、周りの音や異常に気づきにくい場合があります。作業中は使用しないでください。

### ■ エンジンの始動前の確認事項

- ① 周囲や作業スペース、足場の安全は確認できていますか？
- ② 燃料は購入1か月以内の新鮮なものが適量充填されていますか？
- ③ エンジンオイルは適量充填されていますか？
- ④ 作業環境は屋外の換気の良いところで行っていますか？
- ⑤ 作業スペースは水平な場所で行っていますか？
- ⑥ ホッパー内、投入口に異物などが入っていませんか？
- ⑦ 排出バッグに破れやほつれはありませんか？
- ⑧ 作業員は作業するのに適した服装、安全防具を装着していますか？

上記確認事項を確認し、安全に本機をご使用ください。

- ！ 重要** エンジン始動する際は必ず始動前に「18 頁 エンジン始動前の注意事項」をご確認ください。適切な手順で始動されない場合、本機が故障するだけでなく、事故やケガの原因となります。



- ① スロットルレバーを「高速」(←) の位置にします。
- ② チョークレバーを「START (←)」の位置にします。
- ③ 燃料バルブを「OPEN (→)」にします。
- ④ 後方の安全を確認してから、リコイルスターターのグリップをにぎりリコイルロープを引きます。リコイルは刃と直結しているため一気に強く引くとロープが切れる恐れがあります。1回引くだけでは回転速度が足りない場合があるので、その場合は2回、3回と回転に勢いがつくまでゆっくりロープを引くのを繰り返してください。
- ⑤ エンジンが始動したらゆっくりとチョークレバーを「RUN (→)」にします。エンジンが安定して始動しているのを確認したら作業を開始してください。

- ！ 注意** 気温が高い場合や、エンジンが温まっている状態で始動する場合はチョークレバーを「RUN (→)」の状態ではエンジンが始動してください。また、チョークレバーが「START (←)」の状態でも何度もリコイルを引くとプラグに燃料が被った「被り」の状態となりエンジンが始動できない場合があります。その場合は20～30分ほど時間を置き、被った燃料が気化するのを待ってから再度始動してください。

- ！ 注意** 作業時は、必ずスロットルレバーを「高速」(←) の位置にしてご使用ください。「低速」(→) で作業を行うと出力不足によりエンジンが停止します。

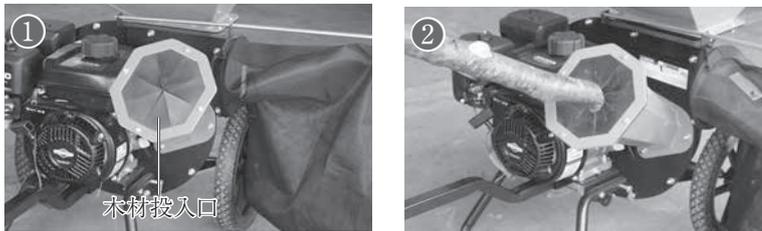


- ① スロットルレバーを「STOP (→)」の位置に移動するとエンジンが停止します。
- ② 燃料バルブを「OFF (←)」にします。
- ③ エンジンが完全に冷えてから収納してください。

- ⚠ 危険** 作業をする際は、タオルや名札、だぶつきのある服装など、木材に絡まったり巻き込まれる危険のあるものを身につけて作業を絶対に行わないでください。木材の投入の際には十分に注意して安全に作業を行ってください。
- ⚠ 危険** 投入する木材に異物（釘、金具、石、コンクリート、ビニール類、ガラス等）の物が付着したままの状態では投入しないでください。万が一、それらが付着したまま投入すると本機を損傷するだけでなく飛散し怪我や事故などを招く恐れがあり大変危険です。
- ⚠ 危険** 投入する際、細くて長いものはしななって怪我や事故を招く恐れがあります。短く切断してから投入してください。
- ⚠ 重要** 腐った木材や、湿っている物は詰まりや付着の原因となりますので避けてください。湿っている木材は、乾燥させてからご使用ください。

### ■ 木材投入口からの破碎

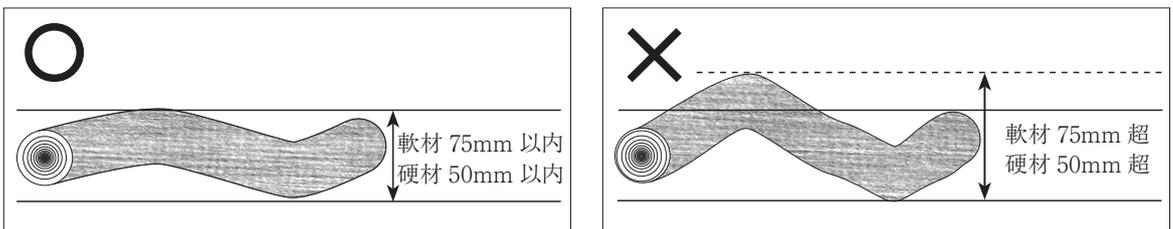
- ⚠ 重要** 規定の木材径より大きなものを投入しないでください。投入口付近には絶対に手を触れないでください。また、のぞき込んだりしないでください。粉碎した木片などが飛散して怪我をする恐れがあります。投入口から長く出るような木材は短く切ってから投入してください。



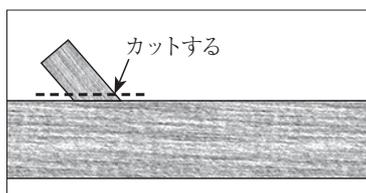
- ① エンジンを始動後、スロットルが「MAX」になっていることを確認します。
- ② 木材投入口に木材を投入します。必ず木材径が使用できる径以下であることを確認してください。
- ③ 投入後は無理に押し込んだり、ねじったりしないように機械自身のベースで引き込ませるようにしてください。無理に押し込むと機械を破損する恐れがあります。

#### ○ 木材投入口投入径について

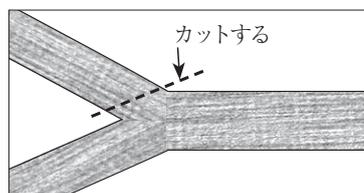
投入できる太さは軟材φ75mm、硬材φ50mm以下となります。極度に曲がっている木や枝、二股などに分かれてる木は投入できません。投入する際は枝や二股の部分のカットして投入してください。また釘等が刺さっている場合は取り除いてから投入してください。



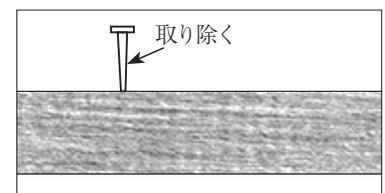
- ⚠ 危険** 下記のような木材は枝や二股部分をカットしてから投入してください。釘等が刺さっている場合は必ず取り除いてから投入してください。



枝が出ている木



二股に分かれてる木

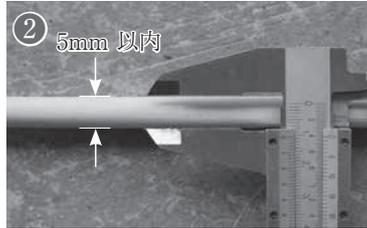
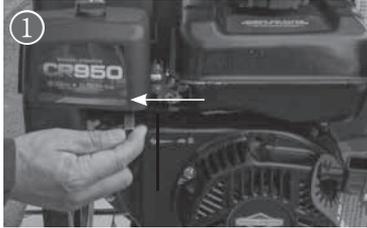


釘等が刺さっている木

## ■ ホッパー投入口からの粉砕

**⚠ 危険** エンジン稼働中は絶対にホッパーに手を近づけないでください。ホッパーに手を近づける際は必ずエンジンを停止してから行ってください。

**⚠ 重要** 5mm 以上の太い枝や木を投入しないでください。それ以上の太さの枝や木を使用すると故障の原因となります。ホッパー内に過度に入れすぎないようにご注意ください。



- ① エンジンを始動後、スロットルが「MAX  (←)」になっていることを確認します。
- ② ホッパーに木材を投入します。必ず木材径が投入できる最大径以下であることを確認してください。
- ③ 投入後はすぐに投入物から手を放してください。投入後は無理に押し込んだり、ねじったりすると損傷する恐れがあります。機械自身のペースで引き込ませるようにしてください。

ホッパー木材投入最大径	φ 5mm
-------------	-------

ご使用が終わった後は、本機を安全に長くご使用いただくためにもきちんとした管理とメンテナンスを心がけていただくようお願いいたします。また、ご使用時に水漏れやオイル漏れがある場合は速やかに修理・点検を行ってください。

**注 意**

本機ご使用後は必ずホッパー内や木材粉碎投入口の中に残骸が残っていない状態で保管をしてください。またご使用後は粉碎した木片や塵などを取り除いて雨風の当たらないところで保管してください。

- ①各部にオイル漏れ、傷やヒビ、ゆがみがないか確認し、異常がある場合は修理・交換してください。
- ②粉碎した木片などは乾燥しやすく、燃えやすい材質です。本体の近くに残さないようご注意ください。
- ③長期間使用しない場合は燃料を抜き取り、適切なメンテナンス後、雨風や日光の当たらないところに保管してください。長期保管の仕方は「30 頁 長期保管・寒冷期の保管の注意」をご参照ください。
- ④保管する場合は必ずエンジンやマフラーが冷えてから保管してください。また近くに可燃物や火気のある場所には保管しないでください。

本機を定期的に点検整備するかどうかによって、本機の故障や寿命に大きく影響します。本機を長く快適にご利用いただくためにも定期的に点検・整備を実施してください。

◎初回 ○通常

点検項目	運転時間毎に点検・整備をする目安				
	作業前毎時	1ヶ月目又は 5時間毎	3ヶ月目又は 25時間毎	6ヶ月目又は時 50間毎	1年目又は 100時間毎
エンジンオイル	点検	○			
	交換		◎		○
エアクリーナー	点検	○			
	清掃			○	
点火プラグ	点検	○			
	交換				○
燃料タンク	点検	○※			
	清掃				○
刈刃点検	○				
保護シートの確認	○				
各部のネジ・ボルトのゆるみの点検	○				
各部のネジ・ボルトへの防錆剤の塗布					○

※燃料は必ず購入1か月以内の新鮮なレギュラーガソリンをご使用ください。それ以前の燃料は劣化により点火しづらくなるだけでなく、キャブレター内にタール状の沈殿物を発生させエンジンに不具合が生じる場合があります。

**!** **注意** 上記点検事項、運転時間以外でも、異音や異常振動、傷やヒビによるオイル漏れなどが見受けられる場合は作業を中断し直ちに補修などの措置を講じてください。絶対にそのまま使用しないでください。

**!** **危険** ○オイルの交換作業は、エンジンを停止し、火気を絶対に近づけてはいけません。排油は運転終了後、油温が適度に冷えてからおこなってください。本機に付着したオイルはきれいにふきとってください。

**!** **警告** ○エンジン稼働時およびエンジン停止直後のエンジン本体、マフラーや油圧機器は高温のため触れるとヤケドをします。エンジン本体、マフラーや油圧機器などには不用意に触れないでください。

○点検や整備のために本機に取りつけられている安全のための保護カバーを取り外すときは、その部分の作動が完全に停止していることを確認してください。点検や整備のために取り外した保護カバーは必ず元の通りに取り付けてください。

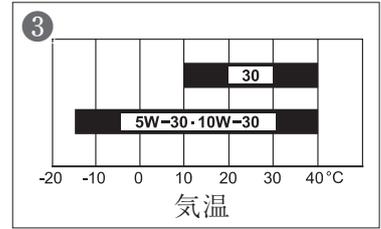
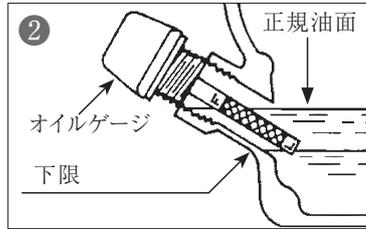
**!** **注意** 各部メンテナンスは本書を熟読し、理解してから実施してください。また、ご不明な点等がある時はご購入された販売店もしくは発売元までご相談ください。

### 3

## エンジンオイルの交換方法

**⚠ 危険** エンジン停止直後は、エンジンオイルが高温になっており、手や肌が触れるとヤケドの危険があります。オイルの点検、交換は安全な温度に下がった状態で作業してください。

**⚠ 重要** エンジンオイルは、ご使用前には必ず適量が充填されていることを確認し不足している場合は補充をしてください。初回時は使用開始から5時間又は1ヶ月、その後100時間毎もしくは1年ごとに定期的に交換してください。オイルが不足していたり、著しく劣化しているとエンジンの焼き付きなど重度の故障の危険があります。また適切な交換がされていない場合のエンジン故障については保証対象外になります。



- ① エンジンオイルを交換するときはエンジンオイルの給油口のキャップを緩め、ドレン口の下にオイルパンなどの受け皿を用意してからドレンボルトを外します。
- ② オイルがすべて排出されたらドレンボルトをしっかりと取り付けて、エンジンオイル給油口から新しいエンジンオイルを入れます。エンジンオイルを給油する際は本機を水平な状態にしてオイル給油口の縁にくるまでオイルを給油してください。
- ③ エンジンオイルは、4サイクル用エンジンオイル SJ 10W-30、寒冷期は5W-30 をご使用ください。

オイルの種類	4サイクル用エンジンオイル (JS 10W-30)
容量	0.6L
交換時期	初回5時間又は1ヶ月 / それ以降は1年または100時間毎

### 4

## スパークプラグの点検・交換

**⚠ 重要** スパークプラグは100時間作動、または1年毎に点検する必要があります。スパークプラグが汚れていると点火不良やエンジンの作動が不安定になります。



- ① エアクリーナーとマフラーの間にあるプラグキャップを引き抜くとプラグがあります。
- ② プラグキャップを外し出てきたプラグをプラグレンチ等で反時計回りに回すとプラグが外れます。
- ③ 隙間ゲージを使用して電極隙間を測定します。スパークプラグ電極のクリアランスは0.7～0.8mmです。隙間が0.8mmを超える場合は、スパークプラグを交換して下さい。先端がカーボンで汚れていると火花の飛びが悪くなる場合があります。その場合は先端をブラシなどで軽くこすって清掃するか、汚れがひどい場合は新しいものと交換してください。
- ④ スパークプラグを逆手順で取り付けます。

**注意**

ご使用前にはエアクリナーの点検と 50 時間もしくは 6 カ月ごとの清掃を行ってください。汚れがひどい場合は新しいものと交換して下さい。エアクリナーが詰まったまま使用すると点火しづらかったりエンジンが安定しない場合があります。

**清掃方法**

- ① エアクリナーカバーの上の蝶ねじを反時計回りに回し外します。中のフィルタの汚れを確認し、汚れている場合はエアクリナーの上部のネジをカバーと同様に外します。
- ② エアクリナー外側のスポンジ部分を取り外して灯油等で洗浄後、よく乾かします。古くなり、もろくなっている場合は新しいものと交換してください。
- ③ 内側のペーパーフィルタ部分は内側からエア等で吹いて清掃します。ペーパーフィルタ部は濡らすと目詰まりを起し使用できなくなります。決して濡らしたり拭き取ったりしないでください。
- ④ 汚れがひどいときは新しいものに交換してください。

**重要**

エアクリナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。

**危険**

- 燃料は非常に燃えやすく危険です。取扱いには十分注意してください。
- 燃料の補給時、燃料フィルタの清掃・交換、燃料パイプの交換など燃料系統の整備時には必ずエンジンを停止して、くわえタバコや火気の近くで作業しないでください。
- 燃料が周りに付着した時はきれいにふき取り清掃してください。そのまま放置するとパッキン等を劣化させる原因となります。

**重要**

- 燃料を補給する際は、タンク内にゴミや水が混入しないように十分注意してください。
- 燃料をペットボトルなどに入れて保管しないでください。また、ペットボトルなどに入れた燃料を使用しないでください。エンジン故障の原因になります。

メーカー	Briggs & Stratton
エンジン型式	CR950
燃料	レギュラーガソリン
容量	3.0L



ローターハウジング内で詰まりが発生した場合、カバーキャップ・ローターハウジングカバーを取り外して内部を確認します。また、刃の交換やメンテナンスなどを行う際にも取り外して確認の必要があります。

**⚠ 危険** 作業をする際は必ずエンジンを停止し、スパークプラグキャップを取り外してください。万が一にもエンジンがかからない状態にして作業を開始してください。



- ① カバーキャップは本体の裏面に蝶ネジ3つで止めてあります。
- ② 蝶ネジを取り外しキャップを取り除くとローターハウジング内を確認することができます。異物などが中に入ってしまった時、こちらの口から取り除ける場合は、こちらから取り除いてください。
- ③ カバーキャップを戻す際は、取り外したときについていたワッシャー、緩み止めワッシャー、蝶ネジの順で取付し、しっかりとカバーキャップを取り付けてください。

**⚠ 危険** 作業をする際は必ずエンジンを停止し、スパークプラグキャップを取り外してください。万が一にもエンジンがかからない状態にして作業を開始してください。

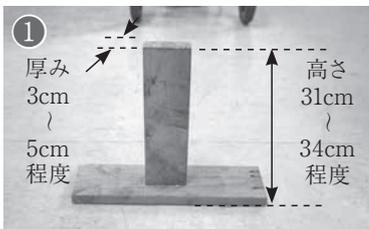


- ① ローターハウジングカバーはカバーキャップでは取り除けない異物や刃を交換する際に取り外します。カバーキャップの周りには6つのボルトで止まっています。
- ② ローターハウジングカバーを取り外す際は必ず2人で作業を行ってください。13mmのレンチなどでナットを外していきます。ボルトを外している際、もう一人はハウジングカバーが外れて落ちないように支えてください。
- ③ ナットが全て外れたらホッパーをもちハウジングカバーを2人作業で取り除きます。取付ける際は逆手順で取付けます。ローターハウジングを取り付ける際はネジの締めすぎに気を付けてください。締め付けトルク 22～24Nm

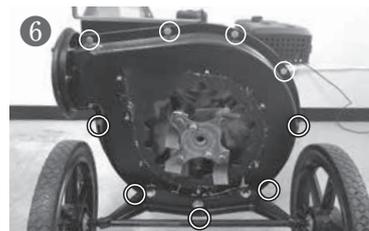
## ■ ご用意いただくもの

- ロックタイト（中高度）
- ハウジング支え用駒（①参照）

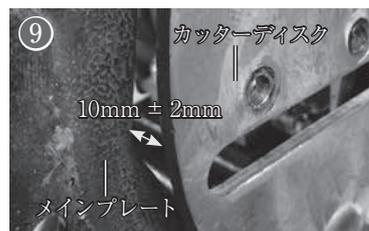
**！ 危険** 作業をする際は必ずエンジンを停止し、スパークプラグキャップを取り外してください。万が一にもエンジンがかからない状態にして作業を開始してください。



- ① 事前にご用意いただくものとして、ハウジングを支える駒を用意します。高さ31cm～34cm、厚み3cm～5cm程度のもを用意してください。底面は写真のように安定するように板に固定しておくことで作業がしやすくなります。
- ② 「ローターハウジングの取り外し」を参照し、ローターハウジングを取り除いておきます。
- ③ ハウジングの後ろの接続部にハウジングを支える駒を横から差し込みます。あまりにグラつくようなら支えを補強してください。



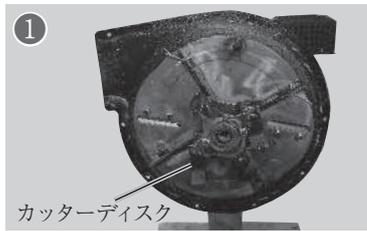
- ④ 排出口カバーがついているとメインハウジングが取り外せないため、排出口の裏側にあるボルト2本（頭13mm）を外します。
- ⑤ 排出口カバーを取り外します。
- ⑥ メインハウジングの周りのボルト（頭13mm）9本を外していきます。



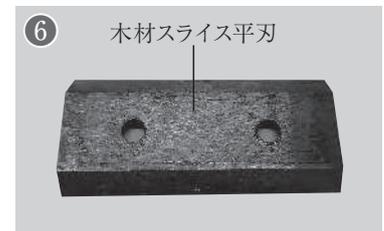
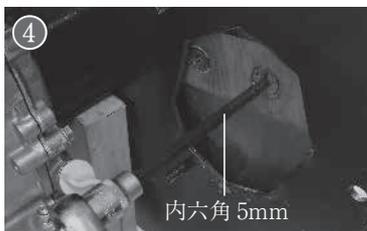
- ⑦ ハウジングを取り外します。
- ⑧ ハウジング内部にも異常がないか確認をしておきます。
- ⑨ メインプレートとカッターディスクの隙間が8mm～12mmであることを確認しておきます。8mm未満、もしくは12mm以上間隔が開いている場合、カッターディスクがゆがみや変形しているため、正常に作動しない可能性があります。その場合は使用を直ちに中止し、販売店もしくは発売元までお問い合わせください。

木材スライス平刃は消耗部品となります。定期的に点検を行い、摩耗・破損した場合は交換が必要となります。部品ご購入は販売店もしくは発売元にお問い合わせください。

**⚠ 危険** 作業をする際は必ずエンジンを停止し、スパークプラグキャップを取り外してください。万が一にもエンジンがかからない状態にして作業を開始してください。



- ① 「メインハウジングの取り外し」を参照しハウジングを取り外しておきます。
- ② 木材粉碎投入口を止めているボルト3本(頭13mm)を取り外し、木材粉碎投入口を取り外します。
- ③ 木材粉碎投入口を取り外した場所から木材スライス平刃が見えるようにカッターディスク側からカッターディスクをゆっくりと回し、刃が見える位置に調整します。(危険ですので投入口には手や指を絶対に入れないでください。)



- ④ 投入口から内六角5mmの六角レンチで木材スライス平刃のネジを固定します。
- ⑤ カッターディスク側からナット(13mm)をレンチで取り外します。
- ⑥ 木材スライス平刃が摩耗している場合や、亀裂やゆがみのある場合は新しいものと交換してください。



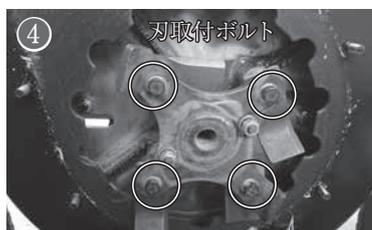
- ⑦ 木材スライス平刃を投入口から入れてボルトを差し込みます。カッターディスクからでたボルトの先端にロックタイト(中高度)を塗布します。
- ⑧ ナット(頭13mm)を取り付け木材スライス平刃を固定します。

スクエア刃・L字型刃は消耗部品となります。定期的に点検を行い、摩耗・破損した場合は交換が必要となります。部品ご購入は販売店もしくは発売元にお問い合わせください。

**⚠ 危険** 作業をする際は必ずエンジンを停止し、スパークプラグキャップを取り外しておいてください。万が一にもエンジンがかからない状態にして作業を開始してください。



- ①「ローターハウジングの取り外し」を参照し、ローターハウジングを取り外します。
- ②カッタープレート中心部の軸に2種類の刃があります。まっすぐな刃がスクエア刃です。
- ③L字型に曲がっているのがL字型刃です。



- ①刃取付ボルトを外し、刃を交換していきます。
- ②ボルト(φ13)、スクエア刃、L字型刃の位置を間違えないように1枚ずつ交換するのがおすすめです。
- ③刃を交換し終わったらローターハウジングを元通りに取り付けます。

## 1

## 長期保管の注意事項

シーズンオフや1か月以上ご使用の予定がない場合は本機を適切なメンテナンスを行った上、雨風の当たらない場所に保管してください。適切な処理をされない場合、次回使用時に不具合が発生する場合があります。その場合の不具合・故障につきましては保証対象外となりますのでのくれぐれもご注意ください。

### ■ キャブレター内の燃料排出方法

ガソリンは燃料タンク内に入れたまま長期保管すると劣化し、エンジン不調の原因となります。そのため長期保管時はタンク内やキャブレター内のガソリンを排出する必要があります。燃料タンク内に大量にガソリンが残っている場合は事前に給油ポンプ等で抜いて量を減らしておいてください。



- ① 燃料コックを「 (←)」の位置にして閉じます。
- ② 排出する燃料を受けるためのオイルドレンや容器をドレンボルト下に設置し、キャブレターのカップ部分の斜め下にある燃料ドレンボルトを8mmのレンチで緩めるとキャブレター内のガソリンがボルト穴から排出されます。この時、ボルトは完全に外さないで緩めるのみにします。燃料コックを「OPEN(→)」にすると燃料タンクの中のガソリンも排出されます。
- ③ ボルト穴から燃料タンクやキャブレターに残っていたガソリンがすべて排出されたらドレンボルトを締めなおし、燃料バルブを「 (←)」にして閉じます。

### ■ 保管時の注意点

本機を長期保管するときは、下記の事項に注意してください。

- 付着した泥・水分・異物を取り除いて、屋内のコンクリートか硬い乾燥した地面上に格納してください。屋外や直射日光が当たる場所、雨風の当たる場所には保管しないでください。
- オイル交換を定期的におこなってください。
- 保管は必ずエンジンが冷却状態で収納し、可燃物や引火しやすい物の近くには保管しないでください。

## 2

## 寒冷期使用の注意

- 寒冷期は、使用后必ず付着した泥・水分・異物を取り除いてください。
- 本機が凍結している可能性がある場合は、無理に動かそうとはせずに、凍結が溶けるまで待つて使用してください。水・ぬるま湯などをかけて溶かした場合、不具合や損傷が発生したとしてもメーカー保証対象外となります。
- 熱湯は急激な熱膨張によるひび割れやパッキン部分を破損させる危険があるのでかけないでください。

トラブル	考えられる原因 →対処方法
リコイルが回らない。 リコイルロープが引けない。	木材投入口に木材が入っている。 →リコイルスターターはカッターディスクと直結しているため、カッターディスクが回らないとリコイルが引けません。木材投入口から木材を取り除いてください。
	異物が引っかかってカッターディスクが回らない。 →カバーキャップを開けて異物がないか確認してください。異物がある場合はそれを取り除いてください。
	エンジンオイルが過剰に充填されている。 →エンジンオイルは多すぎても少なすぎても不具合の原因となります。15頁「エンジンオイルの点検」を参照しエンジンオイルが規定量になっているか確認してください。
エンジンが始動しないまたは、 始動しづらい。	燃料が入っていない。 →購入から1か月以内の新しい燃料を投入してください。
	点火プラグのプラグキャップが外れている。 →プラグキャップをしっかりとプラグに接続してください。
	エンジンが温まっているのにチョークを閉じて(→)いる。 →再始動時や気温が高いときはチョークを開いて(←)エンジンを始動してください。閉じたまま何度もリコイルを引いたときはガソリンがプラグに被っている場合があります。その場合は30分ほどおいて再度試してください。
	古い燃料が入っている。 →購入から1ヶ月以上たった古い燃料は劣化し燃焼しにくくなってます。8項「長期管保と寒冷期保管の注意事項」の「■キャブレター内の燃料排出方法」を参照し、キャブレター内の燃料を抜いた後、購入から1か月以内の新しい燃料を入れてください。
	エアークリーナーが汚れている。 →エアークリーナーを清掃してください。
	点火プラグが汚れている。隙間が規定より開いている。 →点火プラグを確認し汚れていれば清掃、もしくは新しいものと交換してください。隙間が規定より開いている場合は規定の間隔に調整してください。
	キャブレターが汚れている。 →キャブレター内の清掃をしてください。キャブレター清掃についての詳細はご購入された販売店もしくは購入元にお問い合わせください。
	エンジンオイルが不足している。 →エンジンオイルを充填してください。充填しても改善されない場合はご購入された販売店もしくは購入元にお問い合わせください。
エンジンオイルが過剰に充填されている。 →エンジンオイルの点検を参照し適正なオイル量が充填されていることを確認してください。オイルは多すぎても少なすぎても不具合の原因となります。	
エンジンに力がない。	スロットルレバーが「MAX  」になっていない。 →スロットルレバーを「MAX  」にしてください。
	スロットルレバーが「MAX  」になっていない。 →スロットルレバーを「MAX  」に移動してください。
	古い燃料が入っている。 →購入から1ヶ月以上たった古い燃料は劣化し燃焼しにくくなってます。8項「長期管保と寒冷期保管の注意事項」の「■キャブレター内の燃料排出方法」を参照し、キャブレター内の燃料を抜いた後、購入から1か月以内の新しい燃料を入れてください。
	エアークリーナーが汚れている。 →エアークリーナーを清掃してください。
エンジンの排気部分が黒くなっている。	点火プラグが汚れている。 →点火プラグを確認し汚れていれば清掃、もしくは新しいものと交換してください。
	フィルターが汚れている。 →フィルターを清掃、もしくは新しいものと交換してください。交換方法についてはご購入された販売店もしくは購入元にお問い合わせください。

マフラーから白煙が出ている。	エンジンオイルが過剰に充填されている。 →エンジンオイルの点検を参照し適正なオイル量が充填されていることを確認してください。オイルは多すぎても少なすぎても不具合の原因となります。
	横倒しにした。もしくは移動や斜めにした。 →燃料タンク内にエンジンオイルが混入したためオイルが燃焼し白煙が出たと思われます。しばらくエンジンを稼働することによりエンジンオイルが燃焼して白煙は出なくなります。
エンジンは作動するが、なにも排出されない。	投入口、もしくは排出経路が詰まっている。 →エンジンを直ちに停止し、つまりの原因を取り除いてください。
	エンジンが全開になっていない。 →スロットルレバーが「MAX  」になっていることを確認してください。
粉碎しているときに木材や枝が過度に振動する。枝をホッパーに入れるときに余分な力を加える必要がある。	シュレッダーの刃が鈍くなっている。 →刃を研ぐか、交換する必要があります。部品の購入についてはご購入された販売店もしくは購入元にお問い合わせください。
	木材や枝が過度に硬い。 →材質が粉碎に適していません。直ちに使用をやめてください。
木材を粉碎しているときに異音や振動がする。	回転部に木材を詰め込みすぎている。 →投入部が空になってから新しいものを入れてください。
	粉碎刃もしくは可動部がゆがんでいる、もしくは損傷している。 →部品を交換する必要があります。ご購入された販売店もしくは購入元にお問い合わせください。
	粉碎刃もしくは可動部に木片が詰まっている。 →つまりを取り除いてやる必要があります。湿った枝や木材を粉碎すると詰まりやすくなります。乾燥した木材を使用してください。それでもつまりが取れない場合はご購入された販売店もしくは購入元にお問い合わせください。

1

仕様表

	型式	GCP75
寸法	全長	1090mm
	全高	610mm
	全幅	1080mm
	重量	65kg
エンジン	メーカー	Briggs & Stratton
	タイプ	空冷単気筒 4サイクル OHV
	エンジンモデル	CR950
	排気量	208cc
	燃料タンク容量	3.0L
	エンジンオイル容量	0.6L
	スパークプラグ	CHAMPION RC12YC NGK BKR5E
	回転数（無負荷）	3,600rpm
	燃料タイプ	無鉛ガソリン
	オイル種類	SJ 10W-30
	始動方式	リコイルスターター
シユレツダー	ホッパーサイズ	長さ 500mm × 幅 400mm
	タイヤ径	14 インチ
	木材投入口から処理できる最大径	軟材φ 75mm/ 硬材φ 50mm
	ホッパーから処理できる最大径	φ 5mm

※こちらの表記は回転数（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンの出力値です。実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

# M E M O

---



パーツリストについては、プラウ ホームページでのご案内となります。

左の QR コードまたは下記 URL からアクセスしてください。

「部品図・パーツリスト」ページ URL

[bit.ly/plowparts](https://bit.ly/plowparts)

発売元 株式会社ホンダワーク

〒943-0173 新潟県上越市大字富岡256-2

お問い合わせ先 ☎025-530-7025

<https://plow-power.com/>

